

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970101818		
法人名	有限会社 とらい・あんぐる		
事業所名	グループホーム花木		
所在地	奈良市古市町2157-5		
自己評価作成日	平成29年11月10日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2970500795-00&PrefCd=29&Versi
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット
所在地	奈良市登大路町36番地 大和ビル3階
訪問調査日	平成29年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の人格を第一に考え、その人らしい生活を送れるようなケアを心がけております。レクリエーションにおいては外部から多数のボランティアの方々に協力をいただき、地域社会との交流を欠かさないようにしています。内部においても外出の機会を極力設けたり、季節毎の行事を取り入れたりと、四季の変化を体感していただけるようにしております。医療においても利用者様方の意向を尊重し、ご希望に沿うように対応させていただいております。今年から訪問歯科と提携し、ご希望の利用者様の口腔ケア等も実施しております。利用者様家族様共に満足・安心していただけるような介護を目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「笑顔でお世話、思いやりで介護」と解りやすい事業所理念に添って、管理者、職員は常に笑顔で声かけし、利用者の意向を理解しようと努め、日々の支援を行っている。長く務める職員も多く、こじんまりした事業所内は家庭的な落ち着いた雰囲気が漂っていて、利用者は穏やかに暮らしている。利用者と一緒に散歩や買い物、ドライブに出かけるなど外出支援に努めている。専任の調理担当職員を置いて、買出しから調理まで手作りの食事を提供している。利用者が社会と離れることなく、家庭的な生活が続けられるよう努めているグループホームである。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	本人の意思を第一に考えながら、利用者様がその人らしく地域の中で安心して生活できるよう、職員に介護理念を理解しその理念を共有しながら実践できるよう取り組んでいる。	「笑顔でお世話・思いやりで介護」の解りやすい事業所理念を玄関に掲げ、管理者は常に笑顔で利用者へ接するよう職員に伝えている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議等を通して清掃等様々な地域活動に参加させていただいたり、外部からボランティアの方々をお招きしたりと交流を欠かさないようにしている。	自治会に加入し、地域の年2回の大清掃、時々の周辺清掃、防災訓練などの行事に参加し近隣住民との交流を図っている。体操、歌、カラオケ、楽器演奏などのボランティアの方が定期的に訪れ、利用者と一緒に交流が図られている。近くにある系列施設と合同のレクリエーションを模索中である。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会に加入し、運営推進会議等を通して地域との交流を図りながら周囲への理解も得られるよう努めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度運営推進会議を開催し、地域関係者に参加していただいている。当方の現状や問題等を報告したり相談させていただいたり、常に透明性の高い状況でサービスに取り組んでいる。	自治会役員、市担当者、地域包括支援センター職員、民生委員、市社協職員などの参加を得て年6回運営推進会議が行われている。現状報告の他に利用者の後見、空き家問題、地域の高齢化など事業所内に留まらず広く話し合いがされ、先ごろは奈良の防災講話が行われた。	運営推進会議に家族の参加を依頼しているが、仕事を持っておられる家族が多いため、参加が得られていない。会議では家族にとって役に立つ事柄が話し合われているので、積極的な働きかけや議事録を送付するなどの取組みを期待する
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターと運営推進会議やネットワーク会議を通して交流し、情報収集やアドバイスを受けながらサービスの質の向上に取り組んでいる。	地域包括支援センターとは協力関係が構築できており、ネットワーク会議や勉強会にも管理者が参加している。生活保護受給者の受け入れもあり、介護福祉課に運営推進会議の案内や議事録を届けるなど連携を図っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切ないが、建物の前面が県道のため、昨今の状況を踏まえ、玄関一か所のみを施錠している。	安全性、利便性、家族からの提案などから夜間オムツ使用者にはベッド柵を付けている。離床センサーを5台使っている。交通量の多い道路に面しているため玄関は施錠しているが、利用者の様子を見て近くのバス停まで出歩き拘束感をなくす対応をしている。	
7		虐待の防止の徹底	虐待行為は一切ないが、事業所内での虐待が見逃されないう、注意を払い、防止の徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括支援センターのネットワーク会議や勉強会等に積極的に参加させて頂き、利用者様の権利の擁護と共に、より充実した生活を送れるように努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項としてきちんと説明し、理解と納得をはかっている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月の便りに会社代表の携帯番号を記載して苦情窓口として利用し、契約の際に外部相談窓口の案内もしている。	月に1~2回来訪される家族が多く、来訪時に意見を聴くようにしている。家族からの苦情などは余りないが、意見を言われる家族は決まっている。毎月家族に送る「花言葉」には代表者の携帯番号を記し、代表者に直接意見などを言える工夫をしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの要請や必要に応じてスタッフミーティングを開催している。月に一度の幹部会議での伝達事項を日々の申し送りの際に通達し、その場で若しくは随時スタッフの意見や提案を聞く機会を設けている。	管理者は不定期ではあるがミーティングを行い職員の意見を聴いている。勤続年数の長い職員が多く、活発に意見を述べている。職員からの提案でパート職員の勤務時間の改善を実施した経緯がある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与面で日々の業務内容を評価し、職務手当等を加・減算を行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護職員処遇改善と連動してキャリアパスを導入し、職員が自発的にレベルアップできるような体制を構築している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	奈良市東部の各グループホームの合同の催しやブロック会議などにも参加し、同業者のみならず、各介護関係者と意見・情報交換を行うよう心がけ、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所に至るまでに管理者やケアマネージャーが面会・面談を重ね、書面での判断はしない。本人との面談も可能な限り行う。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用入所に至るまでに体験入所を行う機会を提案する等、相互の不安を取り除く等の努力をしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族からの意見や要望について密に相談し、その上でケアマネージャーやスタッフと精査し、その都度必要なサービスを注意しながら実行している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人一人の能力や性格を把握し、できる限り本人が望まれる日常生活の家事などを分担させていただいている。(自分の部屋のモップ掛け、洗濯物たたみ等)		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にして信頼関係を築き、時には家族の協力を仰ぎながら、一体的なケアを心がけている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の方には施設でのイベント等をお知らせし、参加をお願いしている。また施設への訪問時間、回数、訪問者の限定は一切行っていない。	利用者の馴染みの人や場所などを病院関係者やケアマネージャー、家族から聞き取り基本情報に記入し把握している。利用者の半数位は家族と外出や外食をされている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が仲間意識を持てるようにスタッフは常に気を配っている。時には席替え等を行いながら、利用者同士の人間関係には配慮している。		
22		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて本人、家族との相談や支援に努めている。退所後も入院中の利用者のお見舞いに行ったり、他施設への入所支援を行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	フェースシートに詳細を記入し、本人の意思を尊重しながら家族・スタッフが話し合いにより、本人の意思や意向に合うケアを提供している。	思いや意向を本人から直接聴いたり、コミュニケーションのとりにくい方には時間をかけてゆっくり聴くことにしている。聴き取った情報は介護ノートに書き留め共通認識としている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの物や、お気に入りの物等を持参して頂き、より入所前の生活に近い環境、雰囲気の中で落ち着ける環境で暮らせるよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	束縛することなく、またタイムスケジュールを強制することなく利用者の意向を取り入れながら、現状に即したケアを提供しつつ快適に暮らせるよう努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、管理者、ケアマネージャー、スタッフと全ての関係者が随時意見を交換し合い、情報を集めてより最適なケアを模索しながら介護計画に取り組んでいる。	ケアマネージャーがそれぞれの意見を集約し、基本情報、介護ノートなどを参考にして介護計画を作成している。生活歴や趣味なども計画に盛り込み見直しカンファレンスを行い、評価表を作成して、6ヶ月に1度の見直しを実施している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々の様子を観察して介護ノートに記入し、スタッフ全員が共有する体制をとっている。また状況の変化に応じて、随時介護計画を見直している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	積極的に要望の把握を行い、柔軟にニーズに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア活動の方々と交流をはかり、利用者が無理のない、できる範囲で協力しながら支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に二度訪問診療を受けており、それ以外にも何かあればすぐに主治医に相談して指示を受け、信頼関係を築いている。利用者の健康管理には細心の注意を払っている。	内科医の往診が月に2度、精神科医の往診が2ヶ月に1度実施されている。これまでのかかりつけ医に継続受診される方もあり、通院は職員が同行し、記録を残し家族には電話で報告している。歯科、皮膚科も通院可能である。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設の看護師や地域の看護師に相談し、アドバイスを受けながら健康管理を行っている。施設の看護師はケアマネージャーも兼任しているため、利用者の情報は熟知している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医療機関との連携を密にして、入院先病院の紹介、退院後のケアに至るまで、連携体制を構築している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームとして対応可能な状況について、あらかじめ医師家族と相談し、方針決定を行っている。終末期ケアに関しては家族の希望があれば看取りまで行っている。スタッフの不安解消に研修も案内があれば声掛けをしている。	看取りの指針を作成し、利用者の状態が重度化した時、家族に事業所及び医師から説明し、看取りのケアを行っている。家族の意向に添って今年度は1名を看取った。職員には提携病院で資料を基に看取り介護の研修を実施している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	朝の申し送り時に利用者の現状を周知、共有して急変時の処置に対応している。事故発生時の対応については、普段より最寄りの看護師と連携し、早急に対応できるようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	定期的に災害時を想定した避難訓練を行い、迅速な行動がとれるようにしている。また運営推進会議の議題にもしながら、地域や近隣にも協力をお願いしている。地域の防災訓練にも積極的に参加して非常時に備えている。	年3回の避難訓練、1回の消防訓練を利用者も交えて実施している。地域代表や地域包括支援センター職員が参加して講師を招き災害時の施設の避難方法、奈良市に影響のある地震、施設の役割など現状に即した研修を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格の尊重のため個人ノートに詳細を記入して経過を把握し、言葉掛けや対応に注意している。	笑顔で声かけをして支援するように意識している。トイレのドアに「使用中」と大きく書いた張り紙をし、不意に開けることが無いよう、入浴は同性介助を基本としている。重要な書類は管理者が保管し、他の書類は事務所で保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の自己決定を最優先して、個々の意思を尊重し、支援を重視したケアを行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の流れにおいても利用者のペースを大切に、スタッフも家族の一員として希望に沿った支援をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二か月毎に訪問美容に来て頂き、希望に沿った髪形を実施している。また、本人や家族の希望があれば、服装や装飾具、化粧品等の買い物に同行している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の前にはスタッフが必ず嚥下訓練を利用者全員と行き、コミュニケーションを円滑にしながら、皆で同じ食事を摂り、楽しめるよう心がけている。	調理専任の職員が買い出しから調理までを担い、手作りの食事を提供している。食事前には嚥下を促す歌を大声で歌い、嚥下訓練をしている。職員も利用者と同じ食事を楽しんでいる。誕生日会にはちらし寿司やケーキなどで皆でお祝いをしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	スタッフの中に栄養士の経験者が在籍しており、相談しながら献立表の工夫や水分量等を確保できるよう注意、支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、スタッフが見守りながら口腔ケアを行っている。問題発生時には最寄の歯科医と連携し、迅速な対応をしている。訪問歯科とも連携し、ご希望の利用者には歯科衛生士による口腔ケアも週に1度お願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に個々の排泄パターンを把握し、できる限り自立排泄の支援を基本とするトイレ誘導を行っている。	昼間オムツ使用者はなく、リハビリパンツで対応し、夜間3名がオムツを使用している。排泄チェック表でパターンを把握し適時な声かけでトイレへ誘導を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック等で便の状況を把握し、便秘状態にある場合は飲食物や水分摂取の工夫、運動等、薬を安易に使用しない方法で対応している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に強制はしないが、入浴を楽しめるよう、利用者同士の組み合わせや順番、入浴剤の色を変える等の工夫をしている。本人の希望があれば随時入浴もしていただいている。	週に2~3回、午前中に入浴している。入浴記録を付け状態の把握をしている。入浴の順番や声かけ、入浴剤の色を変えるなど気持ちよく入ってもらえる工夫をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンを尊重し、強制することなく、その人らしい且つ健康的な生活を送れるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬情報等により薬の目的、副作用等をスタッフ全員がきちんと理解し、様子観察を十分にしながら服薬支援している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活への参加を促し、残存能力を高める努力を行い、強制することなく自然な形で行えるよう支援している。誕生月にはケーキを買って、皆でお祝いしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、散歩等についても強制することなく支援している。花見や紅葉狩り等、機会を捉えてドライブに出かけるよう心掛けている。	買い物や散歩など外出の機会を作るようにしている。ドライブ好きな人が多く、時折管理者が積極的に利用者全員をドライブに連れ出し、喜ばれている。系列施設のレクリエーションに出かけることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金に関しては、他の利用者とのトラブルを考えて事業所が立て替えている。お金の管理が可能な利用者については、買い物等についてもスタッフは支援を行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙等については一切規制していない。家族と年賀状交換の支援も考慮している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁には利用者の手作り作品を飾り、親しみやすい雰囲気を出している。壁面は季節感を出し、四季を感じ取ってもらえる配慮をしている。	全ての居室が居間に面していて、職員には利用者の様子が見守りやすい構造になっている。壁には指編みなどの手芸品、写真、習字作品などが飾られ、口腔体操の時に使う顔の壁掛けが目をついた。風呂場にはリフトが設けられ、リフト浴の人が4名あり職員の負担軽減になっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	場面において机や椅子の配置を変える等して居心地の良い空間を提供し、話に花が咲いたり場が盛り上がりやすくなるよう工夫している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等の持ち込みについても一切規制はしていない。馴染みや使い慣れた物を持参して頂き、居心地良く過ごしてもらえるよう努めている。	エアコンとベッドが設置された居室は、タンスや衣類の整理箱が持ち込まれ、写真や手作り作品を飾ってそれぞれの空間作りがされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋には自分の写真、名前プレートを貼ったり、大きな字で掲示したりしている。		